

地域活性化 京都府福知山市 「みわ・ダッシュ村」から という「遊び」 86 山本晋也

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動しながらオーガニックレストランを経営。食材調達のため畑も始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足をを目指す。現在みわ・ダッシュ村副村長。

学校に通うのは行きたいときだけ
学校だけが学びの場じゃない
好きなことを好きな場所で
自分のペースで学んできた山本さんの子供たち

遊びのないところに 本当の学びはない

早 めの桜が
ちらほら咲き始めた3月
娘が小学校を卒業しました。

卒業といっても統合で9年制の小
中一貫となったことや
我が家がそもそも
子供の教育の場を学校がすべてと
考えておらず
興味があることが家であれば登校
せずに家でそれを研究したり
隣町にあるフリースタールに遊び
に行ってみたりと
教育は子供それぞれの
ペースに合わせて取り組んできた
ため
とりあえず6年経ったから
はい卒業といわれても
ちよつと実感が湧きません。
既存の学校教育を否定するわけ
ではないのですが
入学や卒業といったような節目は
本来子供たちによってそれぞれ違
ってくるのではと思っています。
似たような例で説明すると
お母さんが赤ちゃんに授乳をやめ
るタイミングを一般的に断乳と呼
んでいましたが



この春、小学校を卒業。全てが学びの場になりえると
本人も自覚しているので、たまに学校に行っても
臆することはありません。どこでも自然体。

最近はず乳といって
やり方も変わってきています。
断乳というのは
大人が決めた1歳4カ月くらいに
なったところで
ある意味強制的に授乳をやめてし
まいますが
卒乳というのは
赤ちゃんが母乳を必要としなくな
るタイミングを図りながら
お母さんも赤ちゃんも納得の上で
授乳をやめるといいうもので
やめる時期はそれぞれの赤ちゃん
によってもものすごく差がでます。
振り返ってみると
寝返りやハイハイするタイ
ミング、歯が生えるタイミング、

言葉を覚えるタイミング、
血のつながった兄弟でも
そういうところから全く違うので
すから
卒乳の時期が違うのは当たり前と
いえば当たり前。
人間は工業製品ではなく生き物で
すからね。
その点から考えてみると
小学校入学のタイミングが
判で押したように決められている
のは少し疑問になります。
極端な例を挙げますと
同学年になる
4月2日生まれの子供と翌年の4
月1日生まれの子だと一年の開き
があるわけですが
決められた同じスピードで教育は
進んでいきます。
小さな時ほど数カ月違うだけで
理解力や運動能力がおおきく変わ
ってしまうので
4月2日生まれの子供が当たり前
に理解できることを
翌年の4月1日生まれの子供が同
じように理解できるかというところ
ちよつと疑問のこりります。
そういうところから
子供が勉強を始めるタイミングや
進めるスピードは
それぞれ違っていたほうが良いの

では？と思ったのが
そもそも我が家なりの
教育の始まりです。
そんなわけで
長男が学校に行き始めたのは小学
校4年生
次男は2年生



フリースクールのお友達。みんな着物が大好きで
来月から一緒にお茶を習うそうです。



集落の溝掃除のお手伝い（幼いころ）。
子供にも楽しみながらできる
ことはあるので
こういうことは全員参加！



絵を描く、お菓子をつくる。
ひとりで過ごす時間も
大切にしています！

三男は1年生から行きましたが
4年生のとき勝手に卒業？
娘は1年生のころ少し通うも
その後は自宅学習とフリースクー
ルという感じで
それぞれ学歴がちがいます。
勉強はそんなふう
に
ゆっくり進めましたが
その地で暮らしていくための共同
作業などは年齢問わず
ある意味強制的に全員参加。
草刈りや排水溝の掃除などは
大人と同じような作業は
できなくても
落ち葉を集めたり
軽いものを一輪車で運んだり
それぞれ年齢に応じて
楽しみながらできることは
たくさんあります。
学校に通わないと

社会性が身につかないのでは？と
周りからよく心配されましたが
先の共同作業のほか
顔を合わせれば挨拶はするし
なにかいただいたらお礼も言うし
お返しもする。
神社の掃除や祭りの準備は
進んで行ない
大雪のときは頼まれなくとも
若い者がお手伝いに行く。
こんな小さな集落でもそうやって
日常を過ごすうち
いまでは学校に通う若い子以上と
地元の人に褒められるほど
社会性は知らない間に身につけ
ていました。
集落の自然やコミュニティが
学びの場となり
集落のお年寄りが立派な先生とな
ったのでしよう。

小 さな集落だと視野や世界観
が狭くなるのでは？
とも言われましたが
そこは自分たちの意識の置き所と
スマホの普及も手伝ってか
今では年齢性別職業国籍問わず
集落外にたくさんいます。
生きづらい
行き場がないなどの悩みを抱え
不登校となった子供たちが全国で
24万人以上と言われていますが
学校だけを
教育の場とするのではなく
学校も含めた世の中の全ての場所
が学びの場となり
そこで出会った全ての人から何か
を学べると
柔軟に捉えなおすことができれば
不登校というネガティブな言葉か
ら解放され
それぞれが
それぞれに合った場所で
自分に合った好きなことを自分の
ペースで自由に学ぶことができ
自信を失った子供たちも笑顔を取
り戻すのではないのでしょうか。
学びのルーツは遊びです。
子供の遊びは本気です。
遊びのないところに
本当の学びはありません。